

令和3年度
練馬区死亡小票分析報告書（案）の説明資料

令和4年3月10日

地域医療課

1. 調査概要

- 調査目的

本調査は、練馬区における看取り死（死亡診断書が発行された死亡）の状況を分析することで、在宅療養環境整備の進捗状況を把握し、施策に活かすことを目的とする。

- 調査方法

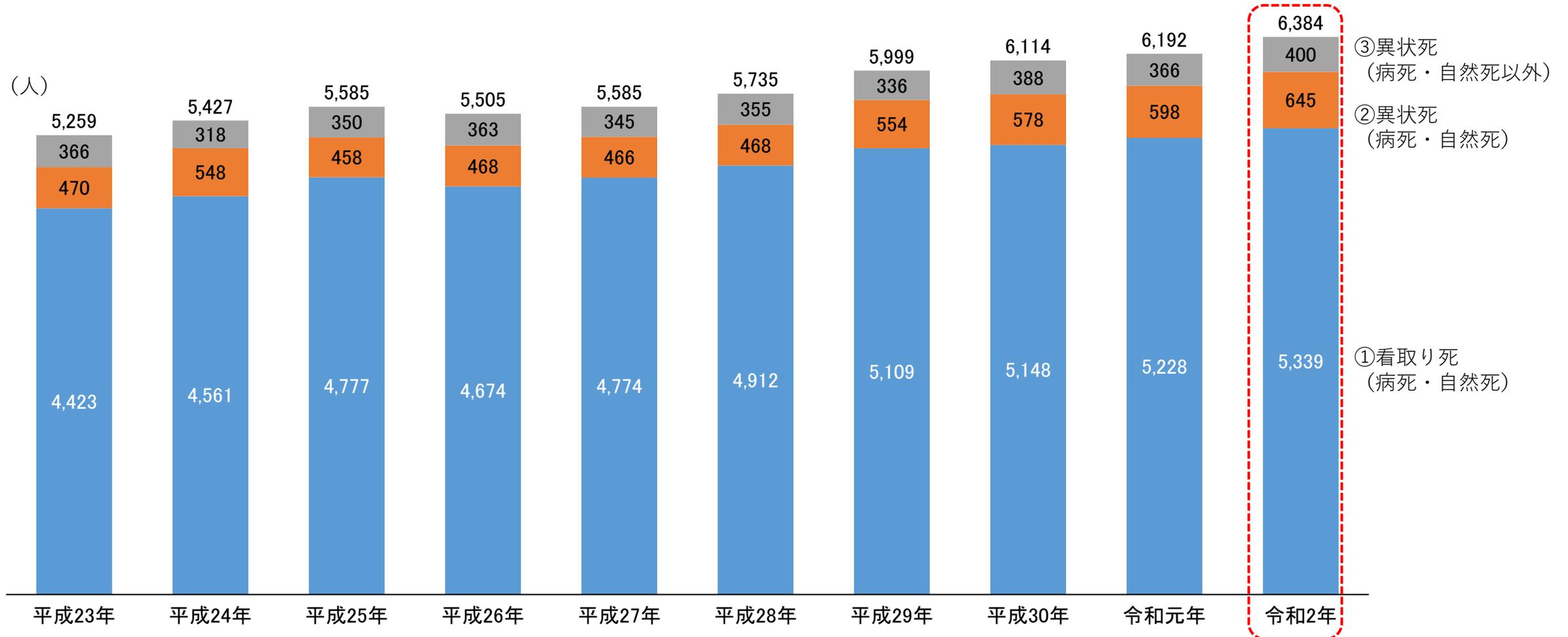
厚生労働省が実施する人口動態調査の死亡票を区独自に集計・分析した。

- 調査期間・対象

令和2年1月1日～令和2年12月31日に死亡した練馬区民を対象にした。また令和元年以前分については過年度の分析結果を用いた。

2-1. 練馬区民の看取りの状況（実数）

- ✓ 令和2年の練馬区の死亡者数は、平成23年以降で最多となる6,384人だった。
- ✓ 看取り死※1、異状死※2ともに平成23年以降で最多を記録した。

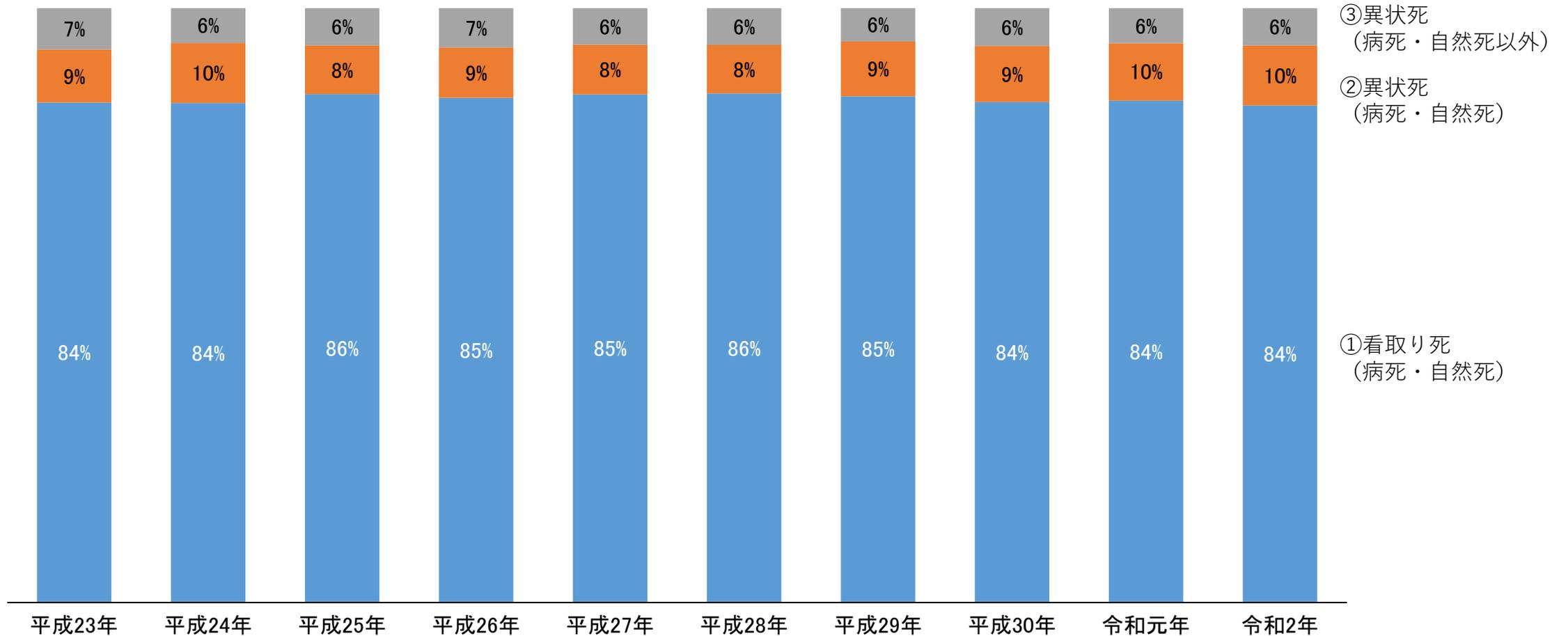


※1 看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。

※2 異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの。（23区内の東京都監察医務院で検案・解剖する不自然死）

2-2. 練馬区民の看取りの状況（割合）

✓ 看取り死※1と異状死※2の割合は、経年で大きな変化はない。

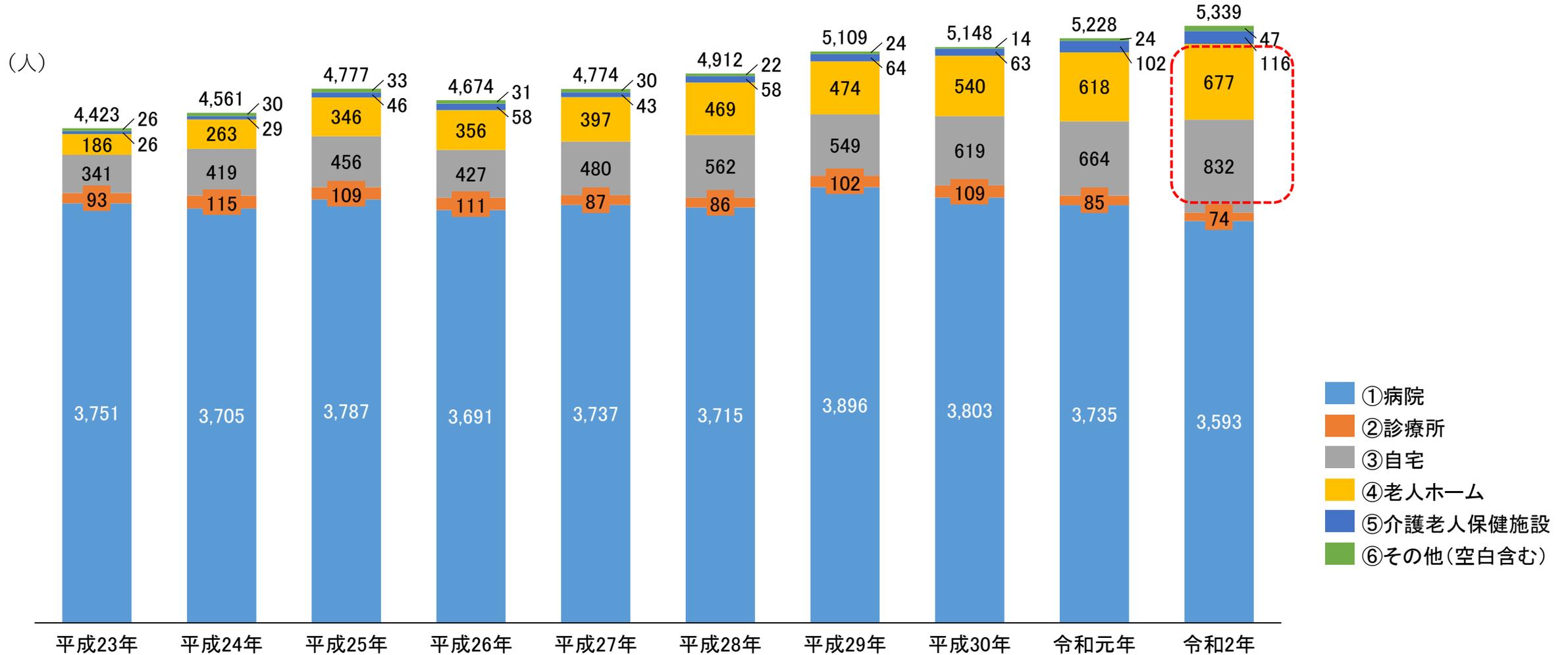


※1 看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。

※2 異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの。（23区内の東京都監察医務院で検案・解剖する不自然死）

3-1. 死亡場所別の看取り死数（実数）

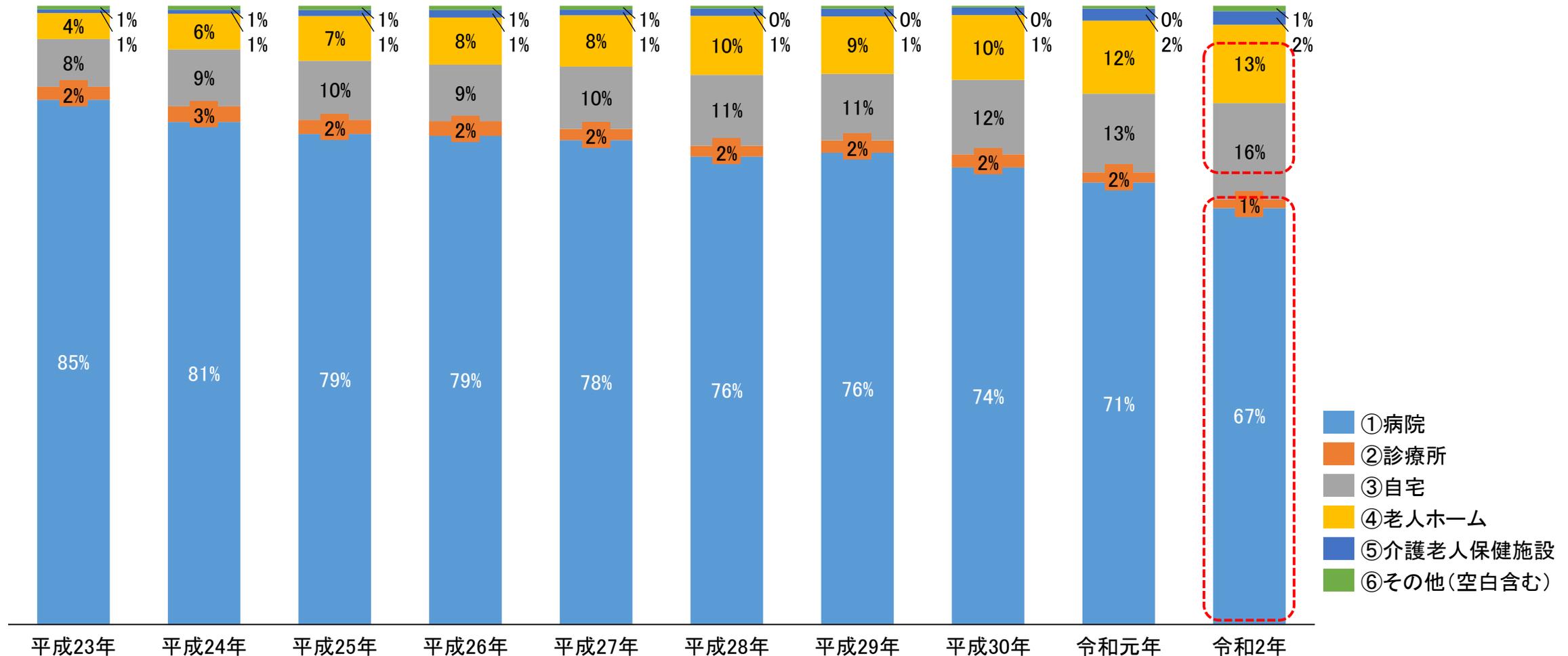
- ✓ 令和2年の看取り死数は、平成23年以降で最多となる5,339人だった
- ✓ 自宅が832人、老人ホームが677人、介護老人保健施設が116人でいずれも平成23年以降で最多となった。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームを含む
 「⑥その他(空白含む)」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む

3-2. 死亡場所別の看取り死数（割合）

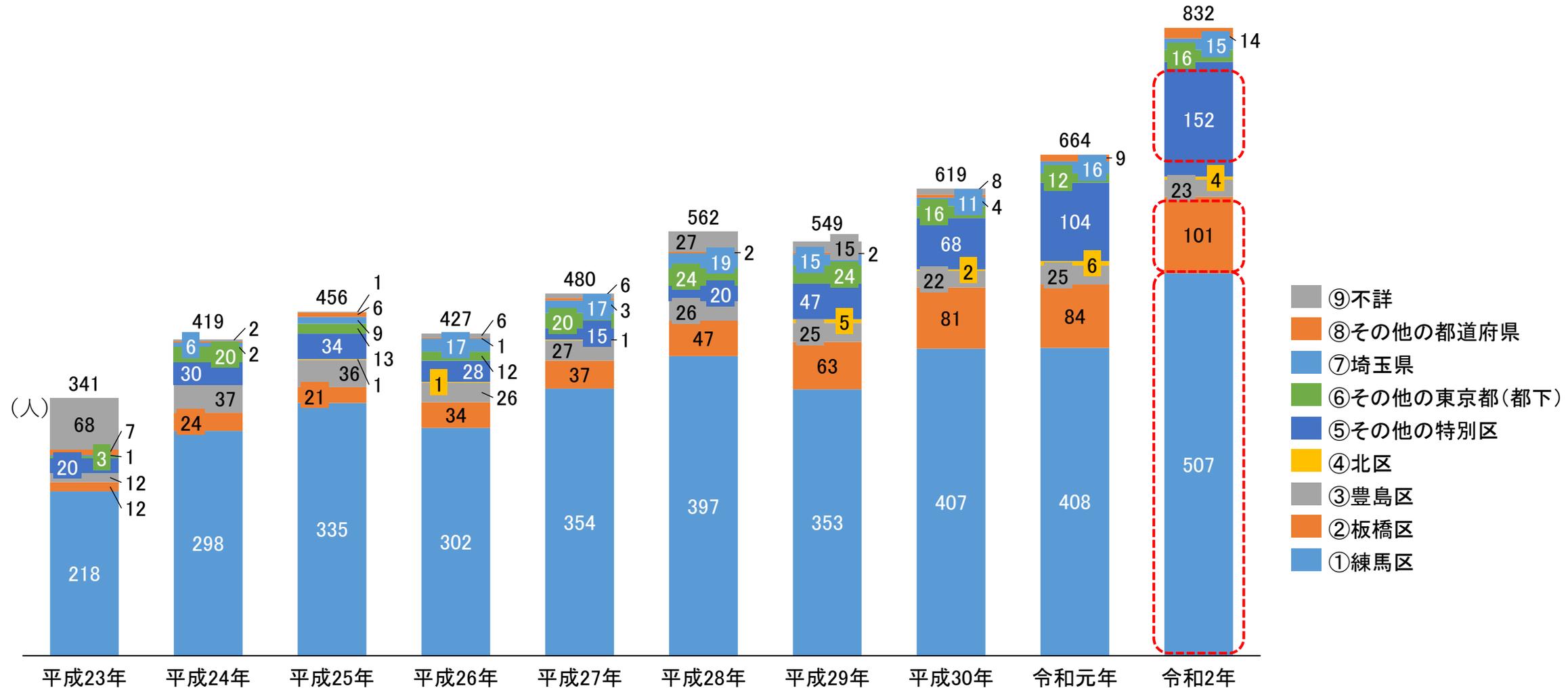
- ✓ 病院および診療所での看取り割合は、平成23年以降で最低となる計68%だった。
- ✓ 自宅が16%、老人ホームが13%で、いずれも過去最高だった。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームを含む
 「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む

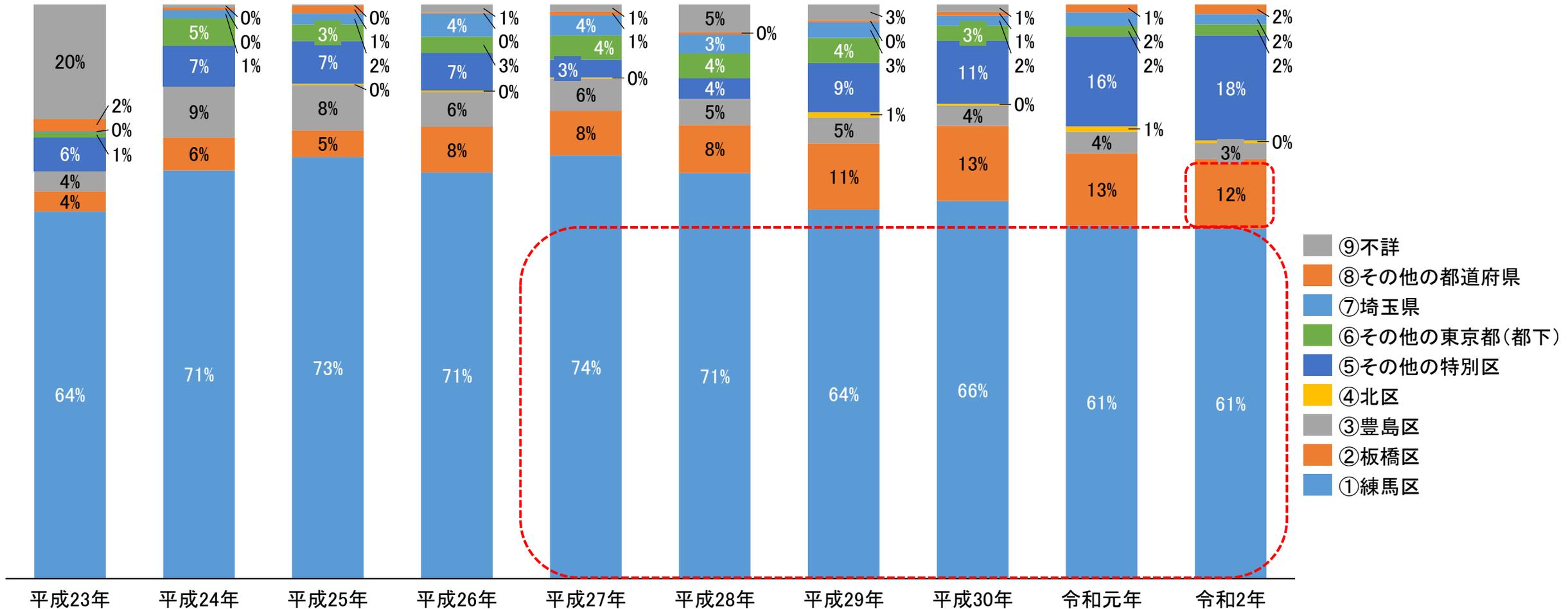
4-1. 医療機関の所在地別の在宅看取り状況（実数）

- ✓ 令和2年は、練馬区の医療機関による在宅看取りが約100人増えた。
- ✓ 板橋区、その他の特別区も、過去最多の在宅看取り数を記録した。



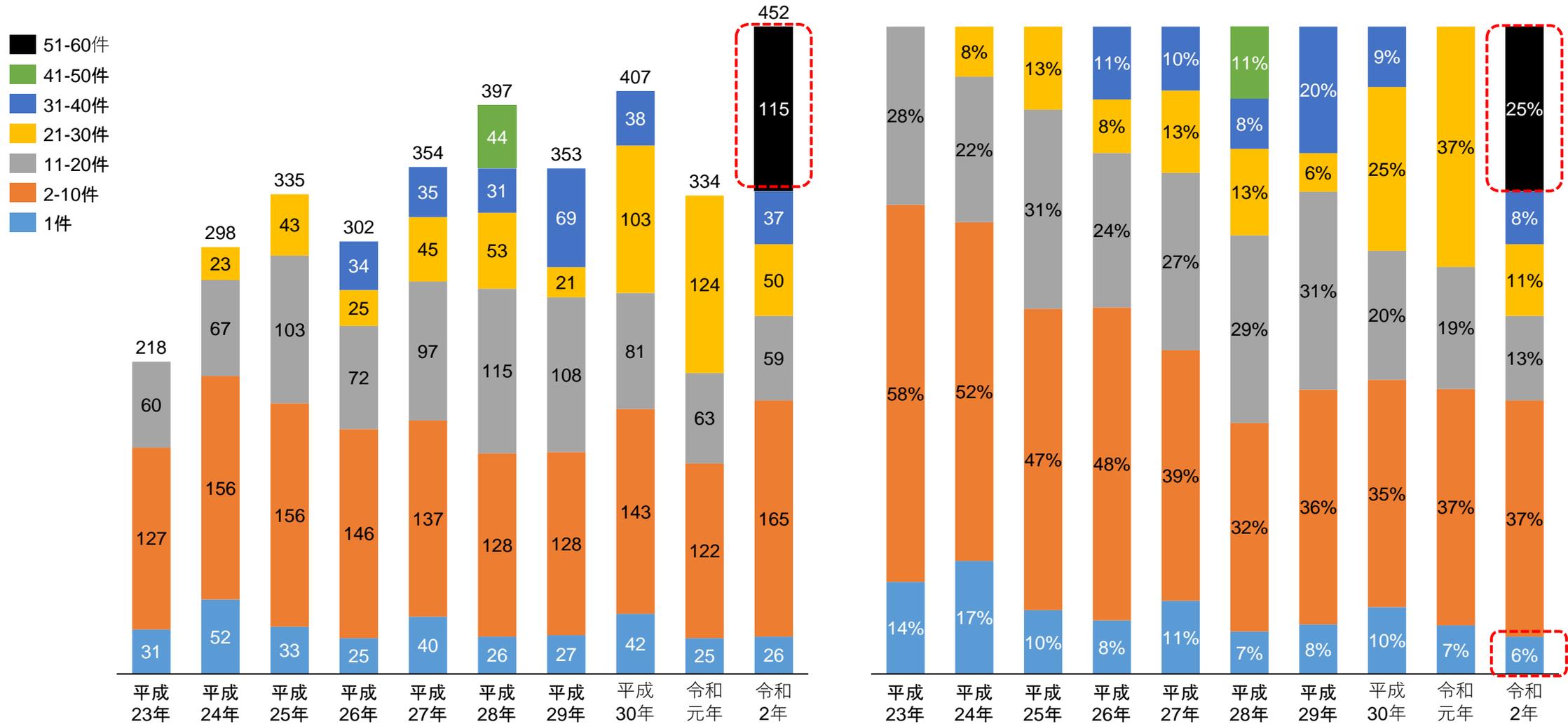
4-2. 医療機関の所在地別の在宅看取り状況（割合）

- ✓ 区内の医療機関によって看取られた割合は平成27年の74%をピークに減少し、令和2年は61%まで下がっている。
- ✓ 区外では板橋区の割合が高く、12%を占めた。また、その他の特別区は18%を占め過去最高となった。



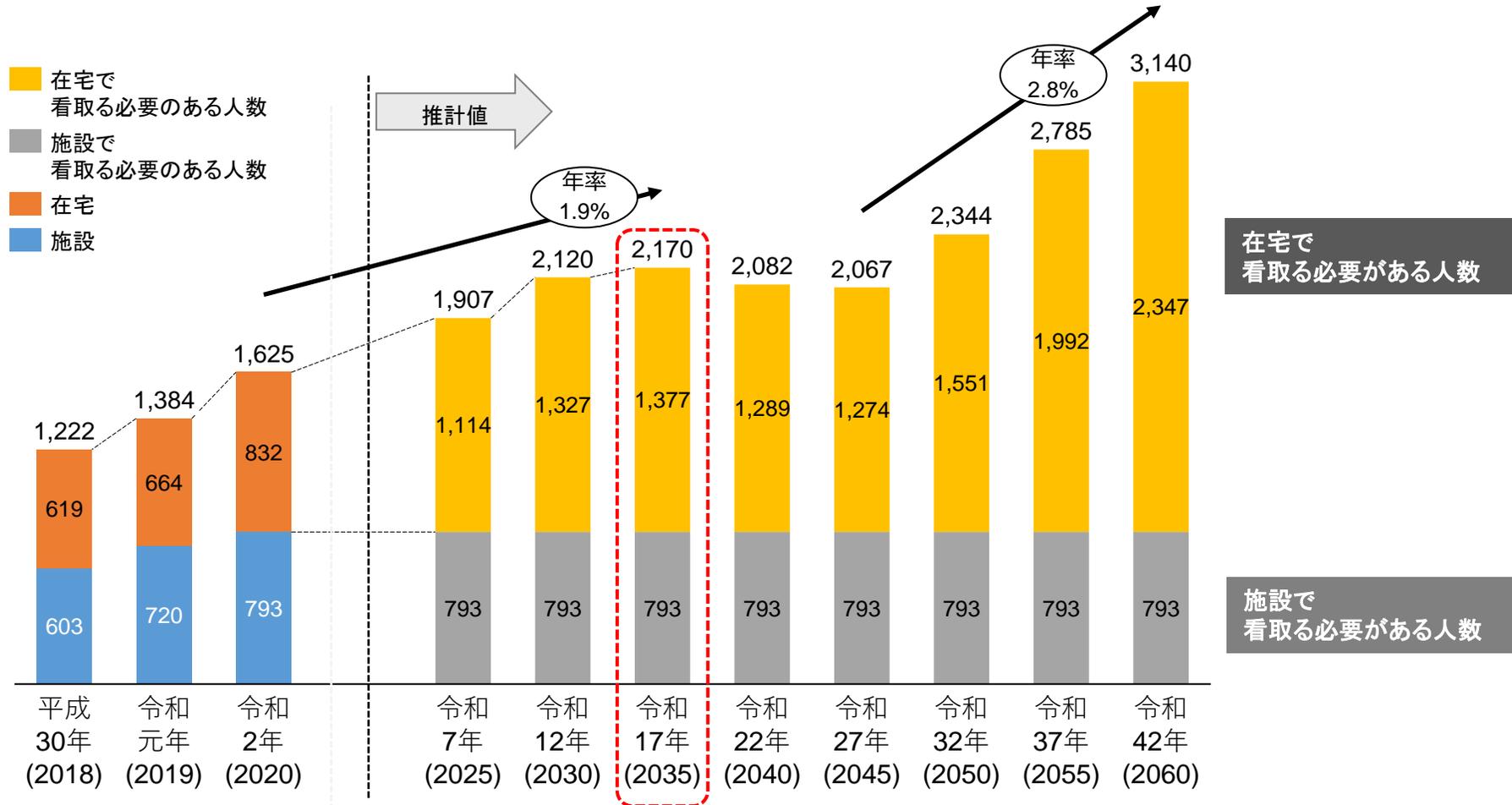
5. 区内医療機関における年間在宅看取り件数区分ごとの看取り件数と割合

✓ 令和2年度は、年間51件以上看取りの医療機関による看取り件数が全体の25%を占めた。
年間1件看取りの医療機関による看取り件数割合は過去最低の6%だった



6. 在宅看取り件数の将来推計

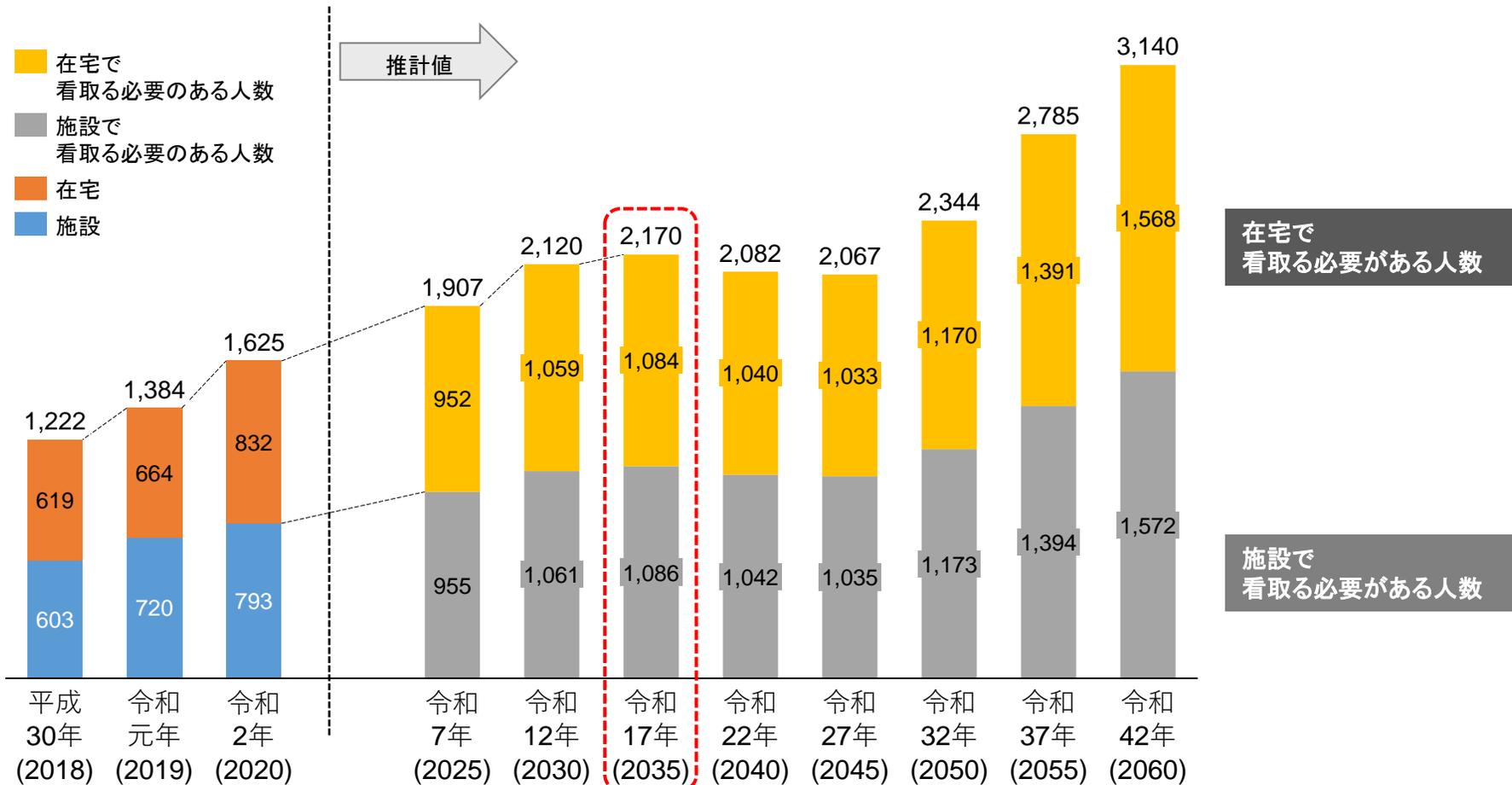
- ✓ 在宅看取り件数は、施設看取りを令和2年（2020年）から一定数と仮定した場合、令和17年（2035年）には2,170人になることが見込まれる。



出所: 死亡分析結果、国立社会保障・人口問題研究所の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計を元に推計

7. 在宅・施設看取り件数の将来推計

- ✓ 在宅と施設の看取りの比率が平成30年（2018年）から令和2年（2020年）の各年の平均で推移したとした場合、令和17年（2035年）には在宅看取り1,084人、施設看取り1,086人になることが推計される



出所：死亡分析結果、国立社会保障・人口問題研究所の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計を元に推計

【参考】死亡場所別の看取り死数

- ✓ 令和2年の死亡場所別の死因をみると、自宅では、悪性新生物が49%で最多となっている。
- ✓ この割合は、令和元年と同じである。

